

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 6 日作成)

委員会名	都市史小委員会	主 査 名：初田 亨
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：陣内 秀信
設 置 期 間	1999 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>近年、日本はもとより、欧米ばかりかアジア、イスラーム世界など、海外での都市史研究の蓄積も顕著になり、各地で国際会議や研究会が開催され、外国との研究交流も様々な形で芽生えつつある。都市史の領域はそもそも、多くの学問領域との重なり、接点をもつものであり、建築以外の他分野との学際的交流も活発に行われるようになってきている。</p> <p>こうした時期にあって、総合的に都市史研究を進展させるために、方法論や情報の交換・蓄積を行うセンター機能を学会に設ける目的で、建築歴史・意匠委員会の小委員会として、「都市史小委員会」が1999年4月に誕生した。既往の都市史に関する研究を各分野ごとに収集、蓄積し、研究の到達点の認識と今後の研究活動を明確にする。</p> <p>時代・地域別の都市史研究を横断的に繋ぐとともに、方法論を豊富化するための研究会・シンポジウムを定期的開催する。</p> <p>外国人研究者の招聘等を通じて、都市史研究における国際交流の活発化をめざす。</p> <p>従来分散的に行われてきた各時代・地域の都市史の成果の蓄積を横断的かつ総合的にとりまとめ、公開シンポジウムの記録冊子、研究文献リスト集、出版物（たとえば都市史叢書等）によって公表する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	泉田英雄(豊橋技術科学大学)、伊藤毅(東京大学)、伊藤裕久(東京理科大学)、川本重雄(京都女子大学)、越沢明(北海道大学)、陣内秀信(法政大学)、高橋康夫(京都大学)、高村雅彦(法政大学)、玉井哲雄(千葉大学)、中川理(京都市芸繊維大学)、野口昌夫(東京藝術大学)、初田亨(工学院大学)(主査)、松本裕(大阪産業大学)(幹事)、宮本雅明(九州大学)、山田幸正(東京都立大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2003 年度日本建築学会大会(東海)建築歴史・意匠部門、都市史小委員会パネルディスカッション『日本の都市の特質』、開催日:2003年9月7日(日)13:00~17:00、会場:中部大学15号館1512室、参加者:約150名 ・ 2003 年度都市史小委員会シンポジウム『近代都市への転換 - 近世から近代へ』、開催日:2003年12月10日(水)10:00~17:00、会場:日本建築学会・建築会館会議室、参加者:約60名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2003 年度日本建築学会大会(東海)建築歴史・意匠部門、都市史小委員会パネルディスカッション『日本の都市の特質』においては、近年の都市史研究の蓄積と都市史小委員会の4年間の研究活動の成果を踏まえ、日本の都市の各時代の特質を諸外国の都市と比較しながら明らかにした。そのなかで、近世において日本の都市空間の骨格が形成されたとする学説が提示された点は特筆すべき成果と考えられる。</p> <p>2003 年度都市史小委員会シンポジウムにおいては、2002 年度のシンポジウムでテーマとした『伝統都市の転換期-中世から近世へ』を受ける形で、『近代都市への転換 - 近世から近代へ』を諸外国の事例を踏まえつつ研究発表を行った。その中では、「近代」という概念をどのように位置づけるかがさまざまな視点から議論された。特に近代に顕著な特徴は、経済活動のドラスティックな変化が都市空間の具体的な形態に色濃く反映されている点であった。この点に関しては、今後も各々の場所に即してその詳細を比較検討しながら場所や時代毎の差異を丁寧に解明していくことの必要性が指摘された。そうした明確な課題の抽出がなされた点も小委員会活動の一つの成果として捉えている。</p> <p>なお、こうした成果は冊子化して公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネルディスカッション資料 AIJ 0309-00500 ・ シンポジウム資料 AIJ 0212-02000

<p>目標の達成度</p>	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係) 上記の設置目的 - のうち、これまで に關しては、1999年のシンポジウム『都市史研究の可能性を探る』において都市史研究を取り巻く現状を整理しそれらへのアプローチの可能性を探ることから始めた。その後も各シンポジウムやパネルディスカッションを通じてこの点は継続して探求されている。 に關しては、2000年度に特別講師リチャード・プランツ(Richard PLUNZ)(コロンビア大学 教授・アーバンデザインコースディレクタ)氏を招き、『ニューヨーク都市』というテーマで特別講演会を実施した。 に關しては、2003年度日本建築学会大会(東海)建築歴史・意匠部門、都市史小委員会パネルディスカッション『日本の都市の特質』時に、パネルディスカッション用資料にあわせて小委員会創設以降のシンポジウム梗概を掲載し、冊子にまとめ公開した。次年度以降は、これまで得られた成果をもとにして、都市史に関する出版を目指している。 このように、都市史小委員会設立時に掲げられた目的は、着実に成果へと結びついている。また、パネルディスカッションやシンポジウムはいずれも盛会であったことなどにも鑑みて、都市史小委員会の活動は十分に意義あるものと考えられる。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>大会学術講演の発表部門として建築歴史・意匠の中に「都市史」のカテゴリーが確立され、小委員会の活動がより開かれた形となり、盛んな研究発表が行われるようになったこと。</p>